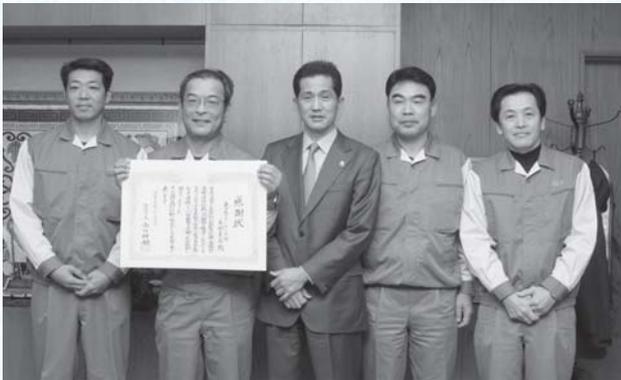


人命救助団体へ感謝状を贈呈

1月23日、人命救助を行った東日本プラントサービス（株）友部支店に、笠間市から感謝状を贈呈しました。

平成23年12月7日、東日本プラントサービス友部支店内の休憩室で、心肺停止に陥った男性（24歳）を、同僚3名が協力し、通報、観察、体位管理、およびAEDを使用し救命処置を行ったもので、救急隊到着時には、意識回復傾向にあり、脈、呼吸ともに正常に近い値でした。

同社は、日ごろから救命講習会等を積極的に受講しており、平常時の備えが、いざというときに生かされました。



左から郡司さん、谷森支店長、
山口市長、成田さん、小園江さん

キッズ・タウンミーティング

12月23日、岩間公民館で青少年育成岩間地区市民の会が主催する「キッズ・タウンミーティング」が開催されました。

子どもたちに市長と対話できる機会を与えることと、子どもたちに地域のことに興味を持ってもらうことを目的に毎年開催されているものです。

岩間一小・二小・三小の6年生20人が参加し「安心・安全」「観光」「公共施設の整備」「震災」などについての提案や質問をしました。

市長がひとつひとつそれらの質問に答えると、子どもたちは熱心にうなずいていました。



緊張した様子でしたが、全員が提案、質問を行いました

笠間市新年賀詞交歓会

1月5日、新春恒例の笠間市賀詞交歓会がパークスガーデンプレイスで開催され、まちづくりに関わる市民をはじめ、国会議員や県議会議員、市議会議員、地元企業、公募による参加者、各界で活躍している特別招待者など、約400名が参加しました。

2部構成で行われ、第1部はくいだおれ太郎かきのき みちこで有名な株式会社くいだおれの会長、柿木道子さんによる「道頓堀発おもてなしの心」と題する講演会、第2部では立食形式のパーティーが開催されました。

参加者は、和やかな雰囲気の中で新年のあいさつを交わしていました。



第2部、賀詞交歓会の鏡開き

2回目の成人式

1月15日、パークスガーデンプレイス（旭町）で「2回目の成人式」が開催されました。

この催しは、今年度40歳を迎える笠間中学校の卒業生たちが、成人式からさらに20年たったことを記念して企画した同窓会で、約120名が出席しました。

当日は山口市長を始め、当時の担任の先生などが来賓として出席し、同窓生たちは思い出を語り合い楽しいひと時を過ごしました。



昭和61年度笠間中学校第40回卒業生同窓会

飛田硯水さんが水墨画を寄贈

11月13日、水墨画家飛田硯水^{けんすい}さんより、水墨画3点が市へ寄贈されました。

今回寄贈されたのは、150号(227cm×182cm)2点、100号(162cm×112cm)1点という巨大なものです。

寄贈された水墨画は、今後、友部公民館など、市内の施設で展示されますので、お立ち寄り際には、ぜひ迫力のある水墨画をご覧ください。



奥入瀬魅了



磯前朝陽



深雪白龍峡

ま ち の 話 題

友部養護学校の校外学習が市役所で行われました

卒業後一般就労を目指す友部養護学校の生徒6名が、市役所本所で清掃の実習を行いました。この実習は、実社会の中で作業することにより、緊張感や責任感をもって取り組むことの大切さと、清掃に関する基本的な技術や作業態度、コミュニケーション能力を身に付けることを目的として行われました。

校外での実習は初めてということでしたが、きちんとした礼儀態度で、落ち着いた様子で清掃を行うことができました。



隅々まで丁寧に清掃を行いました

実践さながらの災害救護訓練を実施

1月20日・21日の両日、岩間海洋センター体育館で日本赤十字社茨城県支部主催による常備救護班等災害救護訓練が行われました。この訓練は、普段から災害を想定して訓練を行うことにより、いざというときに関係機関が連携して力を発揮できるようにするためのものです。笠間市からは、日赤笠間市地区、笠間市赤十字奉仕団、笠間市消防本部のほか、防災ボランティアリーダーなどが参加、マグニチュード7で震度7の地震により多くの死傷者が発生した想定で、実践さながらの災害救護訓練が行われました。



傷病者搬送のシミュレーション訓練

茨城県県央農林事務所笠間地域農業改良普及センターが農林水産省生産局長賞を受賞

社団法人 全国農業改良普及支援協会主催の平成23年度普及活動全国コンクールの表彰式が1月19日、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)で開催され、笠間地域農業改良普及センターが、農林水産省生産局長賞を受賞しました。

受賞課題名は「老舗コギク産地のルネッサンス～担い手を産地自らが育てる体制の構築と新技術を武器にした攻めの普及活動～」。

同センターが、高齢化に伴う生産量の減少や生産販売活動のマンネリ化といった課題に早くから取り組み、花き生産拡大推進委員会の結成や、「花きマイスター『花の匠』」制度の創設、露地電照栽培の拡大などを行ってきた結果、新規生産者14名が育ち、生産量・生産額が増加したことが評価されたものです。



笠間市関係者との記念撮影、前列中央が高橋センター長